

エンジンニアとしての自覚

「エンジンニアになりたくて、うちの会社に入ったんでしょ？」
 実験部門に配属されて半年後、指導員の先輩に鋭く指摘された。
 新人研修でホイールローダーの振動について取り組んでいる時だった。漠然とした志のまま入社した私は、与えられたテーマについてきちんと理解し、探究する意欲を持ち合わせていなかった。
 入社2年目からはエンジンの担当になった。工場で生産されたエンジンを搬入するところから、テストベンチへの設置・運転・計

凛としていきる

理系女性の挑戦



製造業で働く醍醐味

測の実作業、さらには実験計画の策定・データ分析・報告書作成まで一連のスキルを身につける必要があった。当時の課長の口癖は、「我々はプロの集

団だった。純粋に「プロ」を目指したいと思っただけで、男性ばかりの職場で「女性はやっぱりダメだね」と言われ、たかない気持ちも強かった。徐々にスキルを身につけて友人に悩みを聞いて貰いながらも、エンジンとともに充実した毎日を過ごすようになった。
 厳しく優しく導いてくれる上司に巡り合えたことは大きな転機になった。生産したエンジン

良を行ったり、お客さまの現場へ行き不具合の原因究明をさせてもらったり...と製造業で働く醍醐味を味わう多くの貴重な経験ができた幸運に感謝している。現在は、油圧シヨベルの開発支援業務を行っているが、自分の強みも弱みも考え方も嗜好もすべて、入社後に経験してきたあらゆることが寄与していることを日々痛感している。
 伝えることで、「エンジンニアになりたい！」と夢見る子どもたちを増やしていきたい。
 企画協力・日本女性技術者フォーラム(JWEF)
 キャタピラー・ジャパン油圧シヨベル開発本部 技術管理部技術管理課 石田 あずさ

その後は電装部品の設計担当として、時には生産ラインの現場の方から厳しい指導をいただくこともあった。サプライヤーの担当の方と協力して新しい機械に搭載する部品の改良を行ったり、お客さまの現場へ行き不具合の原因究明をさせてもらったり...と製造業で働く醍醐味を味わう多くの貴重な経験ができた幸運に感謝している。現在は、油圧シヨベルの開発支援業務を行っているが、自分の強みも弱みも考え方も嗜好もすべて、入社後に経験してきたあらゆることを日々痛感している。
 昨年から社内ネットワークで後輩女性たちとともに、未来の「エンジンニア」を増やすための種まき活動を行っている。建設機械とそれに係る仕事の魅力を



プロフィール 92年 東京農工大学農学部農業工学科卒、同年入社。相模事業所(旧相模開発センター)。12年より明石事業所油圧シヨベル開発本部。「JWEF個人会員」